

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の 特徴	小規模多機能居宅介護だからできる「ご利用者が自宅で生活する為にどのような支援が必要か」を考えた柔軟なサービス提供はもちろんの事、ご利用者の生活の質の向上を図るために、季節にあったイベントを行ったり、月に1度外出行事を行なっています。また毎月バイキングでの食事を取り入れ、身体を維持するために、健康状態を維持するための食生活を大切に、食べる楽しさ作りにこだわりを持ってバイキングを行っている。交流を含めた他部門との全体行事、地域への外出も実地しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 鯖江きらめきハウス	管理者	野村 侑希		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	2人	0人	2人	0人	0人	1人	0人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価は事前に予定を決め、参加できるようなスケジュール組みを行う。 家族の方にも簡単に記入できるような思いでシートを配り、以前の過ごし方などを把握できるようにする。 ミーティングを通して利用者の変化の共有を行う。	個別評価は全員記入することができたが自己評価の際少人数でしか行なうことができなかった。記入するシートを作ることは出来なかったが、カンファレンスの際に家族の方、利用者の方と昔の話や、今の自宅での過ごし方などを話し合う時間を作れた。ミーティングを行うことが減ってしまい、ノートを通しての共有が多くなった。	・計画でできるようにすると書かれているが、どのようにするのかなど具体的な記載があるともっといいのではないかと。 ・初めて参加するので分かりにくい部分がたくさんあったので「わからない」と答えることが多くなってしまった。	・職員間のミーティングの時間を作り利用者の状態変化、家族からの要望を共有するようにしていく。 ・ミーティングの中で利用者の「～したい」という声をたくさん聴き実現できるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	活動写真の掲載は今後も継続して行う。 家族や地域の方が気軽に立ち寄れる雰囲気作りを行っていく。 自動ドアの開け方については、利用者に周知しており、施錠には該当しないと認識しているが、今後、更にあけやすい状況を検討する。	活動写真を毎月更新することで利用者が写真を見に行く機会が増えている。また写真を見て利用者同士で「楽しかった、これどこやる」という会話を聞くことができた。	・月に1回くらいしか来ないので居心地がいいかなどはわからない。来た時に不快な音・臭いなどはとくに感じない。 ・サロンを通して地域の方がきらめきに来ていると聞いた。 ・玄関に飾られている干支の貼り絵がすごい。利用者と一緒にやったのですかなど褒めていただいた。	・活動写真の掲載は今後も継続して行う。 ・次回より家族会を部門ごとで行うことでご家族が更に参加しやすい環境を作っていく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>地域の行事を把握し、利用者と一緒に参加する。 見守り隊の継続をする。</p>	<p>運営推進会議で地域の行事を聞くことができ、参加することが出来た。 見守り隊にも利用者と一緒に参加することが出来た。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設は孤立しているイメージがあるがきらめきは地域とも交流があり孤立しているイメージがない。</li> <li>・小黒町の“いち”住民という感じがある。</li> <li>・いろんな地域の行事や見守り隊などにも参加していただいてありがたい。</li> <li>サロンやボランティアの方が毎月きているときいている。</li> <li>・いつでも貼り絵などしにきてもいいですか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンを通して地域の方と交流ができるように今後も呼びかけを行う。またサロンに利用者も一緒に参加する。</li> <li>・サロンだけではなくきらめき応援団に登録していただき、ご利用者と地域の方同士が日頃からかかわりが持てるように声をかけていく。</li> </ul>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>市に協力をしてもらい民生委員の把握をする。 これまで通り毎月の外出行事も取り入れる。 自宅での暮らしを支える為訪問支援の継続を行う。</p>	<p>小黒町の民生委員の方と運営推進会議を通して情報交換を行うことが出来た。 毎月外出行事に行くことができた。 今年度は訪問回数が増え、自宅で過ごす時間を多く取ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々なところに連れて行ってもらえている。</li> <li>・小黒町には出向いているが利用者一人一人が地域に行くのは難しいですね・・・。</li> <li>・家族の出来ないことや困っている時に助けてもらえている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月決まった行事だけではなく利用者の「～したい」という要望に寄り添えるように職員ミーティングの中で利用者の「～したい」の声をたくさん聴き実現できるようにする。</li> </ul>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>家族会のときに、運営推進会議が開催出来る様に予定を組む。 管理者だけが参加するのではなく他の職員にも会議に参加してもらい、家族・地域の方の意見を聞く場を設ける。</p>	<p>部門ごとの家族会になり、会議と同日に行うことは出来なかった。 会議には管理者のみが参加となくなってしまったが、会議終了後など小規模の見学に来ていただくことができた。 会議の内容については職員で共有を行なった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の資料にページが打つてあると分かりやすい。今どこを説明しているのか分からない時がある。</li> <li>・地域の心配事があればきらめきではなく市役所に相談してしまっている。</li> <li>・利用者の地域ではまだできていないのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議資料のページ番号は2019年度より挿入していく。</li> <li>・ご家族や地域の方の意見を共有しケア、サービスにつなげていくために管理者だけでなく他の職員も参加できるようにしていく。</li> </ul>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>防災訓練を運営推進会議と同日に行い、家族・地域の方にも参加していただけるようにする。</p>	<p>同日に行なうことができ、訓練の様子を見ていただけた。 また避難の際に「私と行きましょう」など利用者の方に声をかけていただき避難することができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前運営推進会議のあとで地域の方も一緒に参加することが出来た。利用者の方を避難させようと思うと大変ですねとの声あり。</li> <li>・一応地区の避難所もあるので頼りになるかは分からない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害種類(火災、地震、水害)ごとに地域と事業所の関わり方を運営推進会議において確認しておく。</li> </ul>

